

## ニホンイノシシ(*Sus scrofa leucomystax*)の搬出

大谷 美穂子

2023年5月26日にニホンイノシシNo.1雄(愛称:イノッチ、2012年9月18日に横浜市内で幼獣保護)を譲渡により富山市ファミリーパークへ搬出したので、輸送に至るまでの輸送箱取り馴致や輸送方法について報告する。

輸送は輸送箱に収容し、冷房搭載車にて陸路で輸送する方法をとった。

輸送箱は縦100cm×横66cm×幅112cm、重量150~200kg、鉄製の柵と木製の覆で構成されたものを使用し、ニホンイノシシNo.1雄の寝室隣の寝室の間仕切りに合わせて設置した。

間仕切りのオート扉は馴致時に使用するため、手動に変換し、別途のロープにより開閉できるようにした。また、輸送箱はニホンイノシシの雄個体でも動かされないように金属製のチェーンやシャックルで寝室の格子を利用して固定した。

馴致方法は、餌で対象個体を輸送箱内に誘導する方法をとり、強化子として、サツマイモ、ニンジン、乾パンを使用し、これらの給与は馴致の際のみとした。

馴致は搬出当日の時間に合わせて行い、飼育担当者と監視者2名で実施した。馴致は計5回行い、馴致3回目には輸送箱に5分程度留まることができるようになった。

馴致が順調に行えていた成果もあり、搬出当日は1分足らずで輸送箱取りが完了し、輸送計画通りに輸送業者へ受け渡すことができた。

今回、搬出日の決定が約1か月前となり、スケジュール短かったにもかかわらず、ニホンイノシシNo.1雄を安全に搬出できた要因は、①班員の協力(大型草食獣の輸送に対する知見が豊富だったことと班員の技術力の高さ)、②対象個体が人に対して友好的で物怖じしない性格だったこと、③箱取り馴致を含めた工程が順調に進んだことなどにより、搬出当日も平常心で輸送作業に取り組めたことが挙げられる。

これらの経験を活かし、後継者たちへ継承して行くことが、今後の動物輸送を行えるようにするためには大切だと思った。